

寄贈図書リスト

誰でも写せる星の写真, 谷川正夫, A5判, 144頁,
1,800円+税, 地人書館

えれめんトランプ, 考案者 田中 淳, 元素カード
(縦 8.9 cm×横 5.5 cm) 112枚と素粒子カード 28
枚, 解説書, 1,800円+税, (株)化学同人

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお
申し込みください。

e-mail で toukou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿くだ
さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・
所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担
当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.
提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先,
(2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇な
ど)

兵庫県立大学自然・環境科学研究所教員

1. 教授1名 (西はりま天文台公園の施設責任者も兼
務)
2. (1) 宇宙天文系宇宙天文研究部門
(2) 兵庫県立西はりま天文台公園内
3. 天文学 (主として観測天文学) およびその周辺分野
4. 大学の職務 ① 2 m 望遠鏡を用いた研究活動の
推進 ② 学部教育 (総合教育科目, 専門基礎科目
など3教員で4科目提供) ③ 大学院教育にも参
画予定 (時期未定)
天文台公園の職務①公開天文台としての諸活動の
管理・統括 ②研究・教育のリーダー
5. (1) 平成24年4月1日
(2) 5年 (更新可, 回数に制限なし)
6. 博士の学位を有する者
7. ①履歴書 (写真貼付, 連絡先 [住所, 電話, FAX
番号, 電子メールアドレス], 所属学会名を含む)
②研究業績目録 (査読付き原著論文とそれ以外を
区別) ③各種研究費獲得歴, 学会活動歴, 受賞歴
④主要論文の別刷3編以内 (研究業績目録に○
印) ⑤天文学およびその周辺分野に関する研
究・教育・社会貢献の実績をまとめたもの ⑥兵
庫県立大学自然・環境科学研究所ならびに西はり

ま天文台公園における活動計画と抱負をまとめた
もの ⑦応募者について意見を伺える2名の氏
名, 連絡先 (所属・役職・住所・電話・FAX番
号・電子メールアドレス)

8. 平成23年6月30日 (必着)
9. (1) 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6
兵庫県立大学自然・環境科学研究所
所長・田原直樹 (教員公募書類と朱書, 簡易
書留で送付)
(2) 〒679-5313 兵庫県佐用郡佐用町西河内407-2
兵庫県立大学自然・環境科学研究所宇宙天文系
黒田武彦 (kuroda@nhao.jp)
10. 面接を行うことがある (旅費は自己負担)
11. 勤務地が山上のため車が必要。兵庫県の大学教員
の給与表に従って支給される。兵庫県立大学自
然・環境科学研究所については [http://www.stork.
u-hyogo.ac.jp/ines/](http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/ines/) を, 西はりま天文台公園につ
いては <http://www.nhao.jp/> を参照ください。

国立天文台研究教育職員 (ハワイ観測所)

1. 准教授1名
2. (1) ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ
3. 天文学及び関連分野
4. 国立天文台ハワイ観測所は, すばる望遠鏡によ
って世界第一級の科学的成果を上げるとともに, 主
焦点多天体分光器 PFS など次世代観測装置の開発
と整備に務めています。これら, すばる望遠鏡の
装置開発は近年ますます大型化, 国際化し, それ
にともない, 観測所における強力な装置開発マ
ネージメント体制の充実が急務となっています。
このために, ハワイ観測所での装置開発のマネ
ージメントのリーダーとして, 観測天文学研究, 観
測装置開発, 装置開発マネージメント, 国際共同

開発等の実績、能力を有する准教授を公募します。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし（定年は現在 64 歳で、2013 年度より 65 歳になります）
6. 博士の学位を有する（2011 年度内に学位取得見込みの方を含む）か、またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書（現在の e-mail アドレスを必ず記入）
(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）
(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文 3 編以内の別刷（コピーも可）
(4) 着任後の研究計画
(5) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先
8. 2011 年 7 月 15 日（金）必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 国立天文台ハワイ観測所長事務取扱
高見英樹
Tel: +1-808-934-5964
e-mail: takami@naoj.org
10. 封筒の表に「ハワイ観測所 准教授応募書類」と朱記し、簡易書留で送付すること。電子メールでの応募は受けられません。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。例えば、家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について、アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります。

国立天文台研究教育職員（ALMA 推進室）

1. 准教授 1 名，助教 1 名
2. (1) ALMA 推進室
(2) 三鷹もしくはチリ・サンチアゴ
3. ALMA を用いた観測天文学
4. 国立天文台では、日米欧 3 極による国際プロジェクトである ALMA の建設を進めています。今回公募する准教授、助教には、ALMA を用いた観測的研究を進め、世界をリードできる研究者を求めます。国内外に研究グループを形成し、ALMA を使った先端的な研究を戦略的にプロモーションできる方を強く期待します。また、ALMA を軸に波長横断的な研究の展開や他の学問分野との連携なども行えると望ましいです。特に准教授については、ALMA サイエンス活動において、国際的なリーダーシップを

取ることができる方を強く求めます。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 准教授については任期なし（定年は現在 64 歳で、2013 年度より 65 歳になります）。助教については任期 5 年。5 年後に、用務の達成度と研究業績についての審査の結果、任期の定めのない助教となることが可能です。なお、産前産後休暇、育児休業および介護休業を取る場合、その期間は任期には含まれません。
6. 博士の学位を有する（2011 年度内に学位取得見込みの方を含む）か、またはそれと同等以上の方
7. すべて英語にて記載してください。(1) 応募する職種（准教授か助教）(Either Associate Professor or Assistant Professor you are applying for) (2) 履歴書（現在の e-mail アドレスを必ず記入）(Curriculum Vitae; current e-mail address) (3) 研究歴 (Research Experience) (4) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別して下さい）(List of Publications: Separate refereed and non-refereed papers.) (5) 研究計画書 (Research Interest and Plan) (6) 本人について意見を述べられる方 3 名の氏名と連絡先 (Names and e-mail addresses of three persons for reference)
8. 2011 年 7 月 29 日（金）必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 国立天文台 ALMA 推進室長 立松健一
Tel: 0422-34-3815
e-mail: k.tatematsu@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「ALMA 推進室 准教授応募書類」または「ALMA 推進室 助教応募書類」と朱記し、簡易書留で送付すること。電子メールでの応募は受けられません。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。例えば、家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について、アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります。

国立天文台研究教育職員

（天文データセンター・ハワイ観測所）

1. 助教 1 名
2. (1) 天文データセンター（ただし 2012 年度まで

はハワイ観測所 HSC サブプロジェクトに専念していただきます)

- (2) 東京都三鷹市. ただし当初の2年間はハワイへの頻繁な出張が予想される.
3. 光赤外天文学, データベース天文学
4. 国立天文台では, ハワイ観測所・すばる望遠鏡の新・主焦点カメラ (Hyper-Suprime Cam: HSC) が2011年秋にファーストライトを迎え, その後, 天文データセンターを窓口として HSC 観測データを広く天文学コミュニティに公開する予定です. このことを踏まえ, 極めて大きな天文学的インパクトをもつと予想される HSC のデータ処理・校正ソフトウェアを構築し, HSC データのアーカイブ・公開を主体的に進める人材を求めます.
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期5年. 5年後に, 用務の達成度と研究業績についての審査の結果, 任期の定めのない助教となることが可能です. なお, 産前産後休暇, 育児休業および介護休業を取る場合, その期間は任期には含まれません.
6. 博士の学位を有する (2011年度内に学位取得見込みの方を含む) か, またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書 (現在の e-mail アドレスを必ず記入)
(2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む)
(3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文3編以内の別刷 (コピーも可) (4) 研究計画書 (5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2011年7月15日 (金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 国立天文台 天文データセンター長 大石雅寿
Tel: 0422-34-3575
e-mail: masatoshi.ohishi@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「天文データセンター・ハワイ観測所助教応募書類」と朱記し, 簡易書留で送付すること. 電子メールでの応募は受けられません. 応募書類は返却しません.
11. 選考は国立天文台運営会議で行います. 国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し, 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています. 例えば, 家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について, アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります.

国立天文台研究教育職員 (理論研究部)

1. 教授1名
2. (1) 理論研究部
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学の理論的研究
4. 理論天文学で研究分野を切り開く役割を果たせる研究者を求めます. 理論天文学分野の大学院教育や, 大学共同利用機関の教員としての研究活動 (例えば, 理論天文学分野の共同研究や研究会の組織, スーパーコンピュータの共同利用など) に加わっていただける方を望みます. また, 観測天文学と連携した理論研究も歓迎します.
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし (定年は現在64歳で, 2013年度より65歳になります)
6. 博士の学位を有するか, またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書 (現在の e-mail アドレスを必ず記入)
(2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む)
(3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 主要論文5編に下線を付すこと) (4) 着任後の研究計画と抱負 (大学共同利用機関の教員としての研究活動に関する記述を含む) (5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2011年7月29日 (金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 国立天文台 理論研究部主任 富阪幸治
Tel: 0422-34-3732
e-mail: tomisaka@th.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「理論研究部 教授応募書類」と朱記し, 簡易書留で送付すること. 電子メールでの応募は受けられません. 応募書類は返却しません.
11. 選考は国立天文台運営会議で行います. 国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し, 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています. 例えば, 家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について, アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります.

国立天文台研究員

1. 研究員 1名
2. (1) 天文データセンター
(2) 東京都三鷹市

3. 天文学, 特にデータベース天文学
4. 国立天文台天文データセンター (ADC) では, 国際連携の下, 高速ネットワークに接続された国内外に存在する天文データベースおよびデータ解析サービス等へのアクセスを天文学コミュニティに提供する Japanese Virtual Observatory プロジェクト (<http://jvo.nao.ac.jp/>) を推進しています. データベース天文学の普及につながるように JVO システムの機能をさらに向上するためのソフトウェア開発に参加, 国際貢献するとともに, 同システムも用いた天文学研究に積極的に取り組む意欲を持った若手研究者を求めます.
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 原則として着任日より3年間ですが, 年度ごとに業績評価を受け契約を更新していただくこととなります. ただし, 平成17年4月1日以降, 既に国立天文台研究員として勤務した期間がある場合は, 通算勤務期間が5年を超えないように設定されます.
(3) 再任: 審査のうえ, 1回に限り, 再任が可能. 再任後の任期は半年以上2年以下. ただし, 通算勤務期間に関する前項の但し書きが同様に適用されます.
6. 博士の学位を取得した方または平成23年9月30日までに取得見込みの方, もしくはそれと同等以上の方. なお, 平成23年9月30日までに取得見込みの方は, その旨を記載のこと.
7. 応募書類は返却しませんので, 写しで構いません.
(1) 履歴書 (現在の e-mail アドレスを必ず記入し, 写真を添付のこと), (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別すること) (4) 主要論文の写し (3編以内), (5) 研究計画書, (6) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先, (7) 推薦書 (ある場合のみ添付)
8. 平成23年7月1日 (金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 天文データセンター長 大石雅寿
Tel: 0422-34-3575
e-mail: masatoshi.ohishi@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「天文データセンター JVO 研究員応募書類在中」と朱書し, 郵送の場合は簡易書留で送付すること. 電子メールでの送付は受け付けません. 応募書類は返却しません.
11. 短時間契約職員として採用され, 大学助教相当の時

間単価 (期末手当等も含む) で週 30 時間の給与および交通費が支給されます. なお, 勤務時間の 50% を研究員裁量による研究に充てることができます.

京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室教員

1. 准教授または助教 1 名
2. (1) 京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 宇宙物理学教室
(2) 京都市
3. 宇宙物理学
4. 当教室で推進中の 3.8 m 新技術光学赤外線望遠鏡計画について, 望遠鏡本体あるいは関連する装置の開発を積極的に推進し, これを通じて宇宙物理学の研究と大学院生・学部生の教育を行う. また, 平成23年度から発足した「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築」にも協力していただきます.
5. 決定後なるべく早い時期
6. 博士の学位を取得しているか, または採用時に取得が確実なこと. 装置開発の経験があることが望ましい.
7. (1) 履歴書, (2) 論文リスト, (3) 主要論文別刷 (3編程度), (4) 研究歴 (A4 で2頁程度), (5) 研究計画書 (A4 で3頁程度: 希望の職階があれば明示してください), (6) 応募者について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2011年6月1日 (水) 必着
9. 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室
教室主任 太田耕司
Tel: 075-753-3904 Fax: 075-753-3897
e-mail: ohta@kusastro.kyoto-u.ac.jp
10. 封筒に「人事応募書類在中」と朱書し, 簡易書留で送付すること. 応募書類は, お返ししません.

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

岩手大学人文社会科学部・システム物理学・准教授

1. 2010年11月 (第103巻11号)
2. 石垣 剛 (旭川高専准教授)

3. 2011年4月1日

**国立天文台岡山天体物理観測所
専門研究職員（特任助教）**

1. 2011年2月（第104巻2号）
2. 神戸栄治（国立天文台岡山天体物理観測所研究員）
3. 2011年4月1日

研究助成

**第2回（平成23年度）日本学術振興会
育志賞受賞候補者の推薦依頼**

推薦依頼が各大学・関係研究機関の長、各関係学協会の長宛に依頼が来ております。

受け付け期間：平成23年6月15日～6月17日

（社）日本天文学会事務所へ切：5月末日

詳しくは【URL】<http://www.jpsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>

2011年度住友財団基礎科学研究助成

助成対象：理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）

応募資格：若手研究者（個人またはグループ）

助成金額：（1）助成金の総額 1億6,000万円

（2）1件当たりの助成額 最大500万円

（3）助成件数の目安 100件程度

（4）助成期間 1年間 但し希望される場合は更に6カ月間を限度として延長可。

応募方法：住友財団のホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) 基礎科学研究助成から、募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム（PDFとWORD）をダウンロードして申請書ファイルを作成していただきます。

その後、ファイルから申請書を印刷して財団まで郵送していただきます。申請書はまず6/23迄に申請書1ページのデータを財団宛て送信し受付番号を取得後財団まで郵送していただきます。

応募締切日：

データ送信の締切：2011年6月23日（木）必着

郵送書類の締切：2011年6月30日（木）必着

連絡先：〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16

住友芝大門ビル2号館

公益財団法人住友財団（担当 中山）

Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471

E-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

研究会・集会案内

**第13回ジュニアセッション：
代替Webセッションのご案内**

第13回ジュニアセッションは中止となりましたが、中学生・高校生をはじめとした若い発表者たちが、今後研究活動をさらに発展して進められるように、研究内容について、多くの方からのコメントを募集することといたしました。

下記のWebページに、予稿原稿、および希望者からのプレゼンテーションファイル・ポスターファイルを掲載しました（掲載物は今後増える可能性もあります）。それぞれの欄の左にあります「コメントする」のキーから、コメントフォームを開いて、コメントをお寄せください。コメント投稿は匿名でも顕名でも結構です。

http://ursa.phys.kyushu-u.ac.jp/jsession/2011haru/program_comment.html

コメント募集は5月いっぱいを目処に予定しております。皆さまから寄せられたコメントは取りまとめ、6月初旬頃に発表者にお渡しする予定です。

たくさんコメントを頂きますよう、よろしくお願いいたします。

（山岡均/ジュニアセッション実行委員長）

**第20回公開セミナー「天文学の最前線」
～天文学20年～のご案内**

名古屋大学と名古屋市科学館では年に一度、第一線で活躍する天文学研究者を集め、一般向けのわかりやすい講演会と体験型研究室紹介を開催しております。

20回目となる今年のテーマは「天文学20年」です。本公開セミナーの発足から20年間の天文学の長足の進歩とこれからの展望について最先端の研究成果とともに講演します。

日時：平成23年8月3日（水）から5日（金）

会場：3日：名古屋市科学館・サイエンスホール、
プラネタリウム

4日：名古屋大学・野依記念学術交流館

5日：名古屋大学・野依記念学術交流館

主催：名古屋大学大学院理学研究科，名古屋市科学館

講師：福井康雄（名古屋大学 教授），

國枝秀世（名古屋大学 教授），

杉山 直（名古屋大学 教授）

野田 学（名古屋市科学館 主任学芸員）ほか

内容：講演会（3，4日），体験型研究室紹介（5日）

対象：高校生以上

定員：300名（高校生・大学生・教員優先，体験型研究室紹介は定員100名）

資料代：500円（学生），1,000円（一般）

締切：6月27日（月）必着

申込方法：インターネットまたは往復ハガキ

○インターネット：公開セミナーホームページ

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/study/astro/seminar/boshu.html> より

○往復はがき：

【往信面の裏面】に，住所，氏名（ふりがな），参加人数，高校生・大学生・教員・一般の区分，研究室参加希望の有無

【返信面の表面】に，参加代表者の住所と氏名

（※返信面の裏には何も記入しないでください）を記入の上，下記までお送りください。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号

名古屋市科学館「公開セミナー」係

（申込時の情報は，主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません。また，締切後，1週間程度で受講票をお送りします。当日は受講票を持参のうえ，ご参加ください）

問い合わせ先：名古屋大学大学院理学研究科 CR 研

「公開セミナー係」（松原豊）

Tel: 052-789-4316

会務案内

【理事会議事録】

日時：2011年3月17日（木）10:00～12:15

場所：国立天文台三鷹 大会議室

出席理事：岡村，河合，本原，竹田，松尾，田代，幸村，柏川，杉山（TV），太田（TV）（以上10名）

欠席理事：茂山，吉川，梅村，山田，仲野（以上5名）

杉山理事及び太田理事はTV会議システムにより議論に参加した。なお，梅村，仲野，吉川，茂山の4理事からは委任状が事前に提出されている。また，宮下

事務長が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち，議長と署名人の確認がなされた。

議長：岡村定矩

署名人：竹田洋一，本原顕太郎

I-2 岡村理事長より3/11に発生した東日本大震災に対するお悔やみおよびお見舞いの言葉が述べられた。

I-3 前回議事録の確認（資料1，竹田）

資料1に基づき，前回（2011年1月22日）の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 筑波大学における年会中止について（岡村・幸村，資料2）

岡村理事長より年会中止にいたるまでの経緯が説明され，引き続いて幸村年会実行理事よりキャンセル手続きの説明があった。ポスターボードレンタルのキャンセルで，実費のみの請求があったため，その支払を承認した。企画セッション及び特別セッションについては秋季年会で再度実施したい申し入れがあった。秋季年会では，これに加えて一般講演についても大幅に増加することが予想されるため，4日間開催を検討することとした。

II-2 今後の年会の準備状況

●京都大学（太田，資料2）

公開講演会，及び記者発表は京都大学百周年時計台記念館にて開催する。経費は20万円程度を見込んでいるが，共催による割引はない。この支出について承認した。今後，龍谷大学の部屋の確保などを同大学の中山薫二氏と協力して進めてゆく。

●大分大学（資料2）

仲野開催地理事が欠席のため，資料での確認を行った。

会場使用料は概算で110万円であるが，大学との共催が認められると無償となる。その手続を進めることとした。また，ポスターボードを350枚確保する前提で予算計上されていたが，表裏使うと実際にはその半分で済む。この枚数については幸村年会理事が確認することとした。

II-3 前回以降の新入・退会等会員の変動（本原，資料2）

2011年1月22日より2011年3月11日まで

の間の会員変動が報告された。2011年度に新たに1名の休会申請があった。申請締め切り後であったが、理由書を提出してもらった上で実務理事で議論し、特例として承認した旨報告された。

II-4 2011年の全国同時七夕講演会について（本原・河合，資料2）

昨年度および一昨年度、日本天文学会と天文教育普及研究会が共催し、好評であった全国同時七夕講演会を、今年度も同様の形で行うことが報告された。柴田一成氏に委員長をお願いし、担当理事は河合副理事長（広報担当）とする。広報のためのポスター製作費用として40万円程度支出することを承認した。

II-5 小惑星・彗星・流星に関する国際会議開催について（本原，資料2）

天文学会が後援している「2011 Asteroids Comets Meteors Conference」が2011年7月18日～22日に新潟で開催されることが報告された。

II-6 PASJ 理事からの報告（資料2）

茂山PASJ理事が欠席のため、資料による確認を行った。すばる特集号は3月末刊行予定であったが、地震の影響で紙版発行、電子版公開ともに4月上旬に遅れる。外国人編集委員については、ソウル大学のHyung Mok Lee氏と上海天文台のYipeng Jing氏に依頼し、快諾を得た。この2名の方にはPASJ電子版へのフリーアクセス権を付与することとした。

III. 議題

III-1 年会参加に際しての講演登録料の事前支払いについて（幸村，資料2）

年会講演登録料の事前支払いを実施したい旨、幸村年会理事より提案があった。

- 実施開始時期については2011年度秋季年会からと2012年度秋季年会からの2案が示された。2011年度開始の場合は銀行振込または郵便振替のみとし、それが物理的に不可能な会員については支払期間後の払込を認める。振込・振替手数料は会員が負担する。
- 支払期間は講演申込受付開始から2週間と3週間の2案が示された。ただし、支払期間を3週間とした場合、これまでより講演申し込み受付が1週間前倒しになる。

この提案に対し、未払いの講演者についてはどのように対応するのかという質問が出され、支払期間後にも継続的に催促する旨説明された。さらに、最後まで事前支払いを行わず会場

で支払いをしようとする会員が発生するのではないか、というコメントがだされ、そのようなケースを防ぐために当日会場での支払いを行う場合は事務手数料として別途500円程度を追加で請求することとした。また、事前支払後に、今回のような災害により年会在キャンセルになった場合のガイドラインを作っておく必要性が指摘された。これら議論の後、事前支払いを2011年秋季年会から実施し、支払期間は2週間とすることで承認した。

III-2 準会員の年会参加登録費について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、前回理事会・評議員会で議論が行われた準会員の年会参加登録費の取り扱いについて、さらなる調査を行った結果が報告された。まず、直近3回の年会では準会員による講演は全体の1割足らずであり、年会の運営に影響を与えるほどではない。また、歴史的に特別会員と通常会員、または正会員と準会員の間で年会の参加費に違いはなかった。これらのことから準会員の年会参加費を一般会員よりも高くする必要はないと結論した。ただ、準会員による発表の中でプロ（大学や研究機関所属）研究者の割合は8割であり、さらに年会発表を行わないプロの準会員が増加している可能性が指摘された。また、大学研究機関に所属している場合、準会員でもPASJへのアクセスは可能であるとの指摘もあった。これらは学会の会員のあり方の問題でもあるため、庶務理事が中心となって準会員の状況を引き続き調査することとした。

III-3 各賞の授賞式の取り扱いについて（本原，資料2）

各賞の授賞自体は前回の評議員会で確定しており、さらに次号の天文月報で公表されるが、授賞式は次回秋季年会以降に延期する。賞状、メダル、目録は事務所で保管しており、授賞式で手渡す。以上のことは受賞者には連絡済みであることが報告された。賞金の取り扱いについて議論を行い、早急に受賞者に振り込むこととした。また、次回秋季年会で授賞式や受賞講演などすべてをこなすためには、開催日数を増やすなどの対応が必要になることが指摘された。

III-4 公開講演会および記者発表について（本原，資料2）

公開講演会会場は当初3月19日より営業を

再開する予定で、講演者も協力する意向を示しており、ぎりぎりまで開催の可能性を探っていた。しかしながら会場の被害が当初の予想以上に深刻であったこと、余震や原発事故などもあり安全確保に不安があることから、3月16日に理事長判断で中止を決定したことが報告された。4月以降の適当な時期に筑波で仕切りなおして行うことを検討することとした。記者発表についても現時点で行っても記者も集まらず、報道もされないと考えられるため、こちらも4月以降延期する。これらの検討は梅村開催地理事と河合副理事で行うこととした。

III-5 年会発表のない場合の予稿集の取り扱いについて（本原，資料2）

年会の発表は予稿集の記述と年会でのプレゼンテーションで構成されるというのがこれまでの理解であったが、今回の年会中止により、プレゼンテーションは行われぬ。しかしながら、講演内容を記述した講演予稿集は公表・販売されていることから今回に限り、年会での発表は完了したとすることが提案され、承認された。これに対して、次回秋季年会でプレゼンテーションのみを行うことはできないか、さらには秋季年会予稿集に春季年会と同一の内容であることを明記した予稿を掲載して発表することは認められないか、その場合には講演数の制限はかけるのか、そもそもそれを行うと講演数が激増して会場確保が不可能になってしまうのではないかなどの意見が出された。最終的には、次回秋季年会以降、今回と同一の内容の発表を行うことは認められないとすることが承認された。また、発表の引用は、「2011年日本天文学会春季年会予稿集〇〇〇」のようにすることとした。

III-6 予稿集の販売価格について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、今回の春季年会は中止されたものの予稿集は研究結果を公表したものであることから、従来から行っていた年会終了後の販売価格である1000円にて販売を行うことが提案され、承認された。年会キャンセルによる収入減を補うためにも、なるべく広い範囲にアナウンスを行い、販売努力をすることとした。なお、198名の事前購入者については差額1000円の払い戻しを行うこととし、その方法は早急に検討する。また、予稿集に掲載された広告費は出稿した企業に請

求を行うこととした。

III-7 被災者支援と学会の財務状況について（松尾，資料2）

松尾会計理事より、今回の大震災による日本天文学会の財政へのインパクトの試算が説明された。

- 年会キャンセルによる赤字は予稿集の印刷代115万円からその売上を差し引いたものと、ポスターボードキャンセル分26万円など合わせて130万円程度であり、致命的影響はない。
- 今後実施することを検討している被災者の一年分の年会費免除は、対象者は70名以上にはなるものの、申告制であることから必要経費は100万円程度であると想定している。
- 秋季年会が東北大学で開催できない場合、代替会場としてコンベンションセンターなどをを用いると1000万円以上の経費が見込まれ、現在の財政では支えきれない。

このことから、秋季年会の代替開催地はなんとしても大学関係機関にしないといけなことが確認された。また、被災者支援として年会費免除以外にも検討するべきではないかという意見が出された。

III-8 2011年度秋季年会について（本原，資料2）

秋季年会の開催予定地は東北大学であるが、社会インフラの被害状況などをみると開催は困難であることが予想される。山田開催地理事と連絡をとったところ、秋季年会の代替開催地を検討することについては問題ないが、今年秋ならずとも、いずれ年会開催を引き受けたいという意向であることが報告された。また、これを受けて、国内複数大学に内々に代替開催を打診している旨報告された。秋季年会の開催地は遅くとも4月下旬には決定して天文月報の記事にする必要があることから、東北大学開催の可能性を残しつつ、代替開催地の検討をすすめることが承認された。

III-9 評議員選挙公示について（本原，資料2）

評議員選挙を4月20日に公示して行うことが承認された。

次回の理事会は2011年6月18日に開催される予定である。

[資料リスト]

資料1 前回理事会(2011/1/22)議事録

資料2 理事会資料

2011年4月15日

議長：岡村定矩 印
 署名人：竹田洋一 印
 署名人：本原顕太郎 印

【総会議事録】

開催日時：2011年3月17日（木）15時00分～15時35分
 開催場所：国立天文台三鷹キャンパスすばる棟大セミナー室

出席者の確認の結果、事前投票者（全て第1号議案と第2号議案に賛成）と委任状送付者を合わせた総数（会場参加者の重複は除く）は414名、会場参加は38名であり、両者を合わせた有効参加者総数は452名であった。従って定足数（正会員総数1,703名の5分の1＝341名）を満たして総会が成立することを確認した。

議長は規約に則り岡村理事長が務めた。次に署名人として渡邊鉄哉氏、土居守氏が選出された。

議事に先立ち、岡村理事長より、東北関東大震災で被災された方々へのお見舞いが述べられた。続いて、年会担当理事、年会開催地理事をはじめ多くの方々の多大な努力で開催を目前に控えていた筑波大学における春季年会をやむをえず中止せざるをえなかったことが報告された。

続いて、理事長より各賞の受賞者のリストが紹介され、授賞は確定しているが、授賞式は次回の総会で行うことが報告された。

議事：

1. 竹田庶務理事が資料に基づき、2010年度事業報告書の説明を行った。（第1号議案）
2. 田代会計理事が資料に基づき、2010年度決算報告書の説明を行った。（第2号議案）
3. 牧島監事により、この事業並びに決算の両報告書が2011年1月19日の監査で正当と認められた旨の報告がなされた。
4. 第1号議案と第2号議案はいずれも会場参加者と事前投票者の賛成多数で承認された。

報告：

- 日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会の岡村委員長より、IAU 関連の簡単な報告があった（IAU シンポジウム、今夏のチェンマイでの IAU アジア太平洋地域会議、来年の北京での IAU 総会、新規 IAU 会員推薦日程など）。
- 岡村理事長より、学会の学生支援に対する方針を再検討すること、2年半後に迫った法人移行に際

しての諸課題、特に従来の日本天文学会のやり方と大きく変わることになる、総会および評議員会について説明があった。

付記：

本総会は元々筑波大学での春季年会の際に開かれる予定であったが、今回の東北地方太平洋沖地震のために中止になり、国立天文台三鷹での代替開催が急遽決まったものである。地震の余波の混乱（停電、交通機関の乱れなど）もあり、遠方からの参加者は稀で、出席者はほとんどが国立天文台関係者や在京の会員であった。

2011年4月15日

議長：岡村定矩 印
 署名人：渡邊鉄哉 印
 署名人：土居 守 印

【評議員会議事録】

日時：2011年3月17日（木）16:00～17:50
 場所：国立天文台三鷹 大会議室

出席評議員：伊藤、井上、岡村、海部、坂田、牧島、嶺重、観山、渡部、杉山（TV）（以上10名）

欠席評議員：家、池内、奥村、佐藤、須藤、谷口、筒井、望月、山田、劉（以上10名）

その他、河合副理事長、本原・竹田庶務理事、松尾・田代会計理事、幸村年会理事、宮下事務長が出席した。

なお、岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。また、杉山評議員はTV会議システムにより参加した。家、池内、佐藤、須藤、谷口、筒井、望月の7評議員からは事前に委任状が提出されている。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席者及び委任状提出者が17名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。

議長：観山正見
 署名人：海部宣男、渡部潤一

I-2 観山評議員・議長より、3/11に発生した東日本大震災被災者に対するお悔やみおよびお見舞いの言葉が述べられた。

I-3 資料1に基づいて前回2011年2月5日の評議員会議事録の確認が行われた。

II. 報告

II-1 年会中止について（幸村、資料2）
 幸村年会理事より、春季年会の中止に伴う種々のキャンセル手続きがすべて完了したことが報告された。また、企画セッション、特

別セッションについては次回開催の希望が出ていること、ポスターボードのキャンセルで実費のみ請求があり、支払いを行うことが報告された。

II-2 前回以降の新入・退会等会員の変動（本原，資料2）

2011年1月22日より2011年3月11日までの間の会員変動が報告された。2011年度に新たに1名の休会申請があった。申請締め切り後であったが、理由書を提出してもらった上で実務理事で議論し、特例として承認した旨報告された。

II-3 2011年の全国同時七夕講演会について（本原，資料2）

昨年度および一昨年度、日本天文学会と天文教育普及研究会の共催で実施し、好評であった全国同時七夕講演会を、今年度も同様な形で行うことが報告された。柴田一成氏に委員長をお願いし、担当理事は河合副理事長（広報担当）とする。

II-4 小惑星・彗星・流星に関する国際会議開催について（渡部，資料2）

渡部評議員より天文学会が後援している「2011 Asteroids Comets Meteors Conference」が2011年7月18日～22日に新潟で開催される予定である。開催の可否を3月中に決定する必要があり、震災の影響もあり難しいかもしれないことが報告された。

II-5 PASJ 理事からの報告（本原，資料2）

すばるの特集号は3月末刊行予定であったが、地震の影響で紙版発行、電子版公開ともに4月上旬に遅れる。外国人編集委員については、ソウル大学の Hyung Mok Lee 氏と上海天文台の Yipeng Jing 氏に依頼し、快諾を得た。この2名の方には PASJ 電子版へのフリーアクセス権を付与することとした。

II-6 各賞の授賞式の取り扱いについて（本原，資料2）

授賞自体は前回の評議員会で確定しており、さらに次号の天文月報で公表されるが、授賞式は次回秋季年会以降に延期する。賞状、メダル、目録は事務所で保管しており、授賞式で手渡す。以上のことは受賞者に連絡済みであることが報告された。賞金の取り扱いについて議論を行い、早急に受賞者に振り込むこととした。また、次回秋季年会で授賞式や受賞講演などすべてをこなすためには、開催日

数を増やすなどの対応が必要になる。

II-7 公開講演会および記者発表について（本原，資料2）

公開講演会会場は当初3月19日より営業を再開する予定で、講演者も協力する意向を示しており、ぎりぎりまで開催の可能性を探っていた。しかしながら会場の被害が当初の予想以上に深刻であったこと、余震や原発事故などもあり安全確保に不安があることから、3月16日に理事長判断で中止を決定し、可能であれば4月以降の適当な時期に筑波で仕切りなおして行くことを検討する。記者発表についても現時点で行っても記者も集まらず、報道もされないと考えられるため、こちらも4月以降に延期する。

III. 議題

III-1 年会参加に際しての講演登録料の事前支払いについて（幸村，資料2）

年会講演登録料の事前支払いを実施したい旨、幸村年会理事より提案があった。

- 実施開始時期については2011年度秋季年会から開始する。銀行振込または郵便振替のみとし、それが物理的に不可能な会員については支払期間後の払込を認める。振込・振替手数料は会員が負担する。
- 支払期間は講演申込受付開始から2週間とする。また、支払期間を過ぎても支払いがない場合、督促を行い、年会初日までに支払いがない場合は500円程度の事務手数料を追加で請求する。

これら提案に対し、移行期間中は3,500円を年会受付で支払ってもいいのではないかと、そもそもこれは事務長が持ち運ぶ現金を可能なかぎり減らすためのものなのでそれはしないほうが良い、方向性はいいので、数回かけて試行錯誤してもいいのではないかと、などの意見が出された。これら議論の後、事前支払いを2011年秋季年会から実施し、支払期間は2週間とすることで承認された。

III-2 準会員の年会参加登録費について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、前回理事会・評議員会で議論が行われた準会員の年会参加登録費の取り扱いについて、さらなる調査を行った結果が報告された。まず、直近3回の年会では準会員による講演は全体の1割足らずであり、年会の運営に影響を与えるほどではない。ま

た、歴史的に特別会員と通常会員、または正会員と準会員の間で年会の参加費に違いはなかった。これらのことから準会員の年会参加登録費を一般会員よりも高くする必要はないと提案があり、承認された。ただし準会員による発表の中でプロ（大学や研究機関所属）の割合は8割であり、さらに年会発表を行わないプロの準会員が増加している可能性があり、そもそも日本天文学会正会員とはどういふものなのかを考えないといけないという指摘があった。また、たとえば物理学会をメインとしている準会員がいるのでプロが準会員でも良いという議論があったが、逆に天文学会がメインの会員に物理学会でそのような恩恵はない、そもそも準会員制度は日本天文学会特有の制度である、財務諸表を見ると準会員は日本天文学会の財政に相当な貢献をしている、などの議論が行われた。これらの議論を受け、庶務理事が中心となって準会員の状況を引き続き慎重に調査することとした。

III-3 評議員選挙公示について（本原，資料2）

評議員選挙を4月20日に公示して行うことが承認された。また、評議員選挙の当選者は本人に受諾する意思がないままに選出されることがあり、それを防ぐためにも当選本人の意思確認を行い、断られた場合に繰り上げ当選ができないか、という意見があったが、定款を精査したところそれは行えないことが確認された。

III-4 年会発表のない場合の予稿集の取り扱いについて（本原，資料2）

年会の発表は予稿集の記述と年会でのプレゼンテーションで構成されるというのがこれまでの理解であったが、今回の年会中止により、プレゼンテーションは行われない。しかしながら、講演内容を記述した講演予稿集は公表・販売されていることから、今回に限り年会での発表は完了したとみなし、次回年会以降今回と同一の内容の発表は認めないとする理事会案が本原庶務理事より出された。これに対し、完結した仕事として終わった物を学会発表できなくなってしまったことには抵抗がある、今回の事態ではそれは仕方が無いのではないか、発表の機会としては最終的には論文としてまとめるべきではないか、そもそもプレゼンテーションだけを秋季年会で行うことは運用面から難しいだろうと理事会で

は議論した、その理事会の判断は理解できる、などの議論があった。以上の議論を経て、提案は当初の通り承認された。

III-5 予稿集の販売価格について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、今回の春季年会は中止されたものの予稿集は研究結果を公表したものであることから、従来から行っていた年会終了後の販売価格である1,000円にて販売を行うことが提案された。年会キャンセルによる収入減を補うためにも、なるべく広い範囲にアナウンスを行い、販売努力をすることとした。なお、198名の事前購入者については差額1,000円の払い戻しを行うこととし、その方法は早急に検討する。また、予稿集に掲載された広告費は出稿した企業に請求を行うこととした。これに対し、予稿集の価値は低下していないのだから2,000円のままではないのかという指摘があり、これまでの予稿集も会期終了後は半額で販売していたので今回もそのような理解であると説明された。また、財政的インパクトは許容範囲内であると説明された。以上の議論を経て、提案は承認された。

III-6 被災者支援と学会の財務状況について（松尾，資料2）

松尾会計理事より、今回の大震災の日本天文学会の財政へのインパクトの試算が説明されるとともに、いくつかの提案がなされた。

- 年会中止による赤字は予稿集の印刷代115万円からその売上を差し引いたものと、ポスターボードキャンセル分26万円など合わせて130万円程度であり、致命的影響はない。
- 被災者の一年分の年会費免除を行う予定である。対象者は70名以上になるものの、申告制であることから必要経費は100万円程度であると想定している。すでに会費納入を完了している被災者については、2012年度の会費免除を行う。また、全会員について会費納入期限を一ヶ月ほど延長し、4月下旬としたい。
- 秋季年会が東北大学で開催できない場合、代替会場としてコンベンションセンターなどをを用いると1,000万円以上の経費が見込まれ、現在の財政では支えきれない。
- 被災者の会員をサポートするための寄付を集めることも考えている。

これに対し、より大きな問題として、この未曾

有の事態に日本天文学会としてどのように対応するのかを考えるべきではないかという指摘があった。また寄付を集めるのであれば直接被災地へ募金するべきではないかという指摘もあり、これに対しては年会中止に起因する学会財政への負の影響の補填のためではなく被災者への年会出席のための旅費補助などの目的を限った財源として考えている旨説明された。また、日本天文学会としては今回の事態を深く憂慮していることをまず表明し、もう少し長いタイムスケールでできることを考えていくべきであるという意見もあった。以上の議論を経て、被災者への会費免除、及び会費納入期限の延長が承認された。また、被災者援助についても理事会で検討をすすめることが承認された。

- III-7 2011年度秋季年会について（本原，資料2）
 秋季年会の開催予定地は東北大学であるが、社会インフラの被害状況などをみると開催は困難であることが予想される。山田開催地理事と連絡をとったところ、秋季年会の代替開催地を検討することについては問題ないが、今秋ならずとも、いずれ年会開催を引き受けたいという意向であることが報告された。また、これを受けて、鹿児島大学と名古屋大学に代替開催を打診している旨報告された。鹿児島大学であれば、9/19-22の4日間開催、名古屋大学であれば9/25の週の開催となる。秋季年会の開催地は遅くとも4月下旬には決定して天文月報の記事にする必要があることから、東北大学開催の可能性を残しつつ、鹿児島大学での代替開催の検討を進めることが承認された。この検討と準備のため、鹿児島大学の半田利弘氏には「日本天文学会2011年秋季年会準備幹事」の名称を付与することが承認された。また、企画セッション及び特別セッションの取り扱いは理事会で決定することが承認された。

- III-8 2011年の全国同時七夕講演会のポスター制作費用（本原，資料2）
 2011年全国同時七夕講演会広報のためのポスター制作費用として40万円程度支出することが提案され、承認された。

今回の評議員会は、2011年7月9日に開催される予定である。

[資料リスト]

資料1 前回評議員会(2011/2/5)議事録

資料2 評議員会資料

2011年4月12日

議長：観山正見 印

署名人：海部宣男 印

署名人：渡部潤一 印

☆日本天文学会からの大切なお知らせ☆

—2011年秋季年会から年会の参加費と講演登録費の支払いは、事前支払いになります！—

これまで年会の参加費、講演登録費につきましては、年会会場の受付においてお支払いを頂いて参りましたが、年会運営上、会場において多額の現金を管理することが、主に安全面から長年の懸案とされてきました。また、物理学会を含め、多くの学会が講演者・参加者の方に、年会の会場ではなく、事前に参加費・講演登録費の支払いをお願いしているということがあります。この件について、日本天文学会理事会、同評議員会において、慎重に検討を重ねた結果、先の3月に開催されました理事会、評議員会にて講演者の参加費・講演登録費の事前支払いを導入することが決定されました。

この制度を次の2011年秋季年会から導入しますので、講演をされる方の年会参加費・講演登録費は、講演申込みと同時に支払い頂くこととなります。支払い期間は、講演申し込み期間（春季年会は12月上旬～中旬、秋季年会は6月上旬～中旬）も含め2週間となります。また、お支払い頂く方法は、郵便振替と銀行振り込みの2通りのうちいずれかの方法を選んで頂くこととなります。お支払い頂く金額につきましては、従来どおりで変わりません。ただし、金額は申込み時の会員種別で決まりますのでご注意ください。また、振替または振り込み時にかかる手数料は、皆様にご負担をお願いすることとなりますので、ご了承ください。なお、会員の皆様の便宜を図るうえでも、2012年春季年会以降、支払い方法の一つとして、クレジットカードがご利用できるよう準備を進めております。なお、講演なしで参加のみの場合は、従来どおり年会受付にて参加費を現金にてお支払いください。

参加費・講演登録費の支払いのための振替口座、銀行口座の情報、ならびに支払い期間に関する詳細は、天文月報の今月号（6月号）のpp.306-309「日本天文学会2011年秋季年会のお知らせ」と日本天文学会年会のホームページに掲載しておりますので、そちらでご確認ください。

皆様には、新たなご負担とお手間をお掛けいたしま

すが、ご理解とご協力のほどよろしくご願ひ申し上げます。

本原顕太郎（庶務理事）、松尾 宏（会計理事）、
幸村孝由（年会理事）

編集委員会より

天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆者のために日本天文学会 HP に「投稿用
Tex/MS Word テンプレート」をご用意いたしました。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

tex で執筆される方は tex/ あるいは文字コードに応
じて u_Tex2/

MS Word で執筆される方は word/ をご利用ください。

詳しくは各 readme をお読みください。

天文月報記事投稿用アップローダー

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

■ログイン法

login: geppou passwd: toukou

■アップロードの仕方

アップロード画面にいてまず必要事項を埋めて
下さい。するとアップロードに進むことができま

す。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増
やす」ボタンを押して下さい。押す度に欄が増えま
す。一回あたり全部で最大 20 Mbyte まで送信でき
ます。（それ以上の巨大なファイルのアップロード
は推奨されませんが、やむを得ない場合は分割して
お送り下さい）。

■注意

投稿者の個人の認証は cookie を利用しています。
したがって cookie を受け取らないブラウザでは使
えません。また form の check や可変個数のアップ
ロードボックスは javascript を利用していますので
javascript が使えなければこの uploader は使えませ
ん。その場合は従来通り、toukou@geppou.asj.or.jp
までメールでご投稿下さい。

■連絡先

アップローダーに関するテクニカルなご質問は
yousuke.utsumi@nao.ac.jp まで、またその他のご質
問は toukou@geppou.asj.or.jp までお願いします。

柏川伸成（天文月報編集長）

訃報

若生康二郎氏（国立天文台名誉教授）が 4 月 5 日
に急逝されました（享年 82 歳）。謹んでご冥福をお
祈りするとともに会員諸氏にお知らせいたします。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード（5桁の数字と）vol98（5文字）の計 10文字を入力してください。「雑誌コード」とは
印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は
各号共通の数字です。

柏川伸成（編集長）、市来浄与、勝川行雄、鈴木 建、徂徠和夫、竹井 洋、野田寛大、浜名 崇、廣田朋也、前野将太、
山崎 了

平成 23 年 5 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2011 年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）